

物理数学3 homework 8

2016/11/21

1 内部積とリー微分

n 次元多様体 M の点 p の接空間 $T_p(M)$ に属するベクトル $X = X^\mu \frac{\partial}{\partial x^\mu}$ ($\mu = 1, 2, \dots, n$) に対して、 r -形式 $\omega = \frac{1}{r!} \omega_{\mu_1 \mu_2 \dots \mu_r} dx^{\mu_1} \wedge dx^{\mu_2} \wedge \dots \wedge dx^{\mu_r}$ を $r-1$ -形式に変換する内部積 i_X は

$$i_X \omega = \frac{1}{(r-1)!} X^\nu \omega_{\nu \mu_2 \dots \mu_r} dx^{\mu_2} \wedge \dots \wedge dx^{\mu_r} \quad (1)$$

のように定義される。同じ X に対して、 r -形式 ω を r -形式に変換するリー微分 \mathcal{L}_X は

$$\mathcal{L}_X \omega = i_X d\omega + d(i_X \omega) \quad (2)$$

のように定義される。ここで、 $d\omega$ は ω の外微分である。

(1) ξ, ω をそれぞれ r -形式、 s -形式とし、次の式が成り立つことを示せ。

$$\begin{aligned} \xi \wedge \omega &= (-1)^{rs} \omega \wedge \xi, & i_X^2 &= 0, \\ i_X(\xi \wedge \omega) &= (i_X \xi) \wedge \omega + (-1)^r \xi \wedge (i_X \omega) \end{aligned} \quad (3)$$

(2) 外微分、内部積とリー微分の交換関係が

$$[d, \mathcal{L}_X] = 0, \quad [i_Y, \mathcal{L}_X] = i_{[Y, X]} \quad (4)$$

となることを示せ。

(3) 小問 (1) と (2) の結果を使って、リー微分が次の性質を持つことを示せ。

$$\mathcal{L}_X(\xi \wedge \omega) = (\mathcal{L}_X \xi) \wedge \omega + \xi \wedge (\mathcal{L}_X \omega), \quad [\mathcal{L}_X, \mathcal{L}_Y] = \mathcal{L}_{[X, Y]} \quad (5)$$

(4) M が $2m$ 次元シンプレクティック多様体である時、座標を $q^1, q^2, \dots, q^m, p^1, p^2, \dots, p^m$ で表し、任意の M 上の微分可能関数 $H(\{q^j, p^j\}_{j=1}^m)$ によってハミルトニアンベクトル場 (Hamiltonian vector field) が

$$X_H = \sum_{j=1}^m \left(\frac{\partial H}{\partial p^j} \frac{\partial}{\partial q^j} - \frac{\partial H}{\partial q^j} \frac{\partial}{\partial p^j} \right) \quad (6)$$

のように定義できる。任意の X_H に対してシンプレクティック形式 $\omega = \sum_{j=1}^m dq^j \wedge dp^j$ が

$$\mathcal{L}_{X_H} \omega = 0 \quad (7)$$

を満たすことを示せ。この結果 (7) と式 (5) の左辺を用いて、リウヴィルの定理¹ を証明せよ。

¹リウヴィルの定理とは、体積形式 $dq^1 \wedge \dots \wedge dq^m \wedge dp^1 \wedge \dots \wedge dp^m$ がハミルトニアンによる時間発展の下に不変であること。